

第1回TOKYO Data Highwayサミット

議 事 録

令和元年11月8日（金）
第一本庁舎7階 大会議室

午後 5 時00分開会

○戸井崎ICT推進部長 それでは、お時間になりましたので、ただいまから第1回「TOKYO Data Highwayサミット」を開会いたします。

私は、本サミットの事務局をしております東京都戦略政策情報推進本部の戸井崎と申します。本日の司会を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の次第及び会議資料一式は、お手元のタブレットでご覧いただけます。タブレット内の資料は、次第に従って事務局職員が操作をいたします。画面がおかしくなったりしましたら、手を挙げていただければ、職員がお伺いさせていただきます。

御発言は、マイクの下にございますボタンを押していただき、赤くなりましたらお願いいたします。

本日のメンバーと出席者でございますが、お座席に配付しております資料1のメンバー一覧及び資料2の座席表をご覧ください。資料をもって御紹介は省略させていただきたいと思っております。

まず、会議の冒頭に当たりまして、小池知事より御挨拶を申し上げます。

○小池知事 皆様、こんにちは。

御多用のところ、本日、第1回TOKYO Data Highway、まとめましてTDHと呼ばせていただいておりますが、皆様、初めてのサミットに御参加いただきまして、まことにありがとうございます。東京都知事の小池百合子でございます。

今年も自然災害は猛威を振るっておりまして、台風19号の際は、あちこちで道路の崩落などが起こりました。その中で、例えば東京も過疎の地域がございまして、奥多摩で道路が崩落して、車が通れなくなって、医薬品や生活必需品を、ドローンを使いまして、初めて飛ばさせていただきました。目視外飛行という形で、初めての挑戦になりました。わずか2キロぐらいの物しか運べなかったわけでございますけれども、ドローンにしても、これから情報通信を使ってさまざまな活用の仕方があろうかと思っております。また、そのためにも、やはり通信のシステムをいかにして確保していくかが何よりも必要になってくるかと思っております。改めて通信の今後の可能性を私自身、宮坂副知事と一緒に見守って、子供の初めてのお使いではないですけれども、行って帰ってくるのを心待ちにして、ちゃんと戻ってきてほっとしたところでございます。

東京都は世界最高のモバイルインターネット網の構築を目指しまして、このたびTDH、TOKYO Data Highwayの基本戦略を発表させていただいたところでございます。そして、今年8月から、3つのアクションの取組を進めております。その取組につきましては、これからはまさしくキャリアの皆様方とタッグを組んで進めていかなければ、絵に描いた餅になってしまいます。そういうことで、今日は都が保有いたしております約1万3000件のアセットをデータベース化して公表させていただいて、来るべき5Gのアンテナの基地局などの設置のためのワンストップ窓口を創設させていただきたいと考えております。ぜひ、これらを活用していただき、基地局の設置をスピーディーに進めていただきたいと思います。

ます。

これは国際競争力と離して考えることができない、エコシステムそのものだと思います。人間で言うならば神経もしくは動脈と言ってもいいかもしれません。両方かもしれません。そういったことから、東京都として、世界との競争に打ち勝っていくためには、まずこちらを整えていかなければ勝負にならないというぐらいの危機感を持ちながら進めているところでございます。

そこで、皆様方から御意見いただきながら、東京2020大会も来年に控えております関係上、Wi-Fiの環境整備、競技会場への5Gの整備、この地域は西新宿でございますが、ここをある種モデル地域とすること、それから東京都でございますので、南大沢の首都大学東京が今後都立大学にアップグレードする予定となっておりますので、重点整備エリアを決めていきたいと考えております。そこで実証実験を行ったり、基地局の整備などを強力に推進する。幾つかのアプローチがあるかと思いますが、スピーディーにそれぞれを進めていきたいと考えております。

昨日も報道がございましたけれども、5Gの基地局をこれからつくっていくというさなかに、もう次の6Gが控えている。場合によっては、さらにその次の7Gがやってくるということから、この世界は日進月歩で進んでいくのだらうと思います。そういうところで、常に世界最先端のモバイルインターネットを備えた都市として、東京を持続的に成長させていきたいと考えております。

本日は、皆様方と活発に意見交換をさせていただいて、TOKYO Data Highwayの取組を推進していきたいと考えておりますので、どうぞ御協力のほど、よろしく願い申し上げます。

本日はまことにありがとうございます。

村井先生、ありがとうございます。

○戸井崎ICT推進部長 知事、ありがとうございました。

続きまして、座長の村井様に御挨拶をいただき、その後の進行は座長にお任せしたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

○村井座長 ただ今、御紹介いただきました慶應義塾大学の村井でございます。よろしくお願いいたします。

今年には2019年ですけれども、インターネットが生まれたのは1969年となっております。これには2つの起源がありまして、一つはARPANETというネットワークの技術、もう一つはUnixというオペレーティングシステムの誕生、これが一緒になって80年代からインターネットが発展して、50年たったということです。この節目の年の議論として、この次の50年というテーマが大変多くなっています。

実は私は最初の作業をやったのが1989年、成田空港からアメリカへ行って日本とつないだのですけれども、そのとき、空港で号外が出ていました。それが天皇崩御という号外だ

ったのです。ですから、ちょうど平成の30年が、インターネットが日本や東京で一般的になるという30年間でした。今、この国では、ほとんど全ての人がスマートフォン等を使ってインターネットを使うという環境が整ったところですので、そういう意味では令和になって、そして新しい50年ということで、次の30年、50年を考える出発の大変いい機会ではないかと思えます。

先ほど知事がおっしゃったように、本当に全ての人が当たり前のように使っていくところで、これから何に取り組むのかということは、いよいよインフラの基本的な技術がそろってきたので、人を中心に町、都市といった公共の空間がどうやってサイバー空間と実空間を、人や町、都市の視点でどう発展させるかというのが重要なときではないかと思えます。

本日は、ご覧いただいてもわかるように、5Gあるいはそこにまつわるデジタルの先端技術にかかわる企業のトップの方に集まっていただいております、大変大きな議論ができるのではないかと思います。知事がおっしゃったように、スマートシティはこれから世界に向けて日本がどういう貢献ができるのかという意味でも大変重要な領域ではないかと思えます。そういうことに貢献できるようであればと期待しております。

新しいテクノロジーというのは、5Gにはじまり、知事のほうからさらにその先というお話もありました。それも当然のことなのですけれども、一方では、知事が最初におっしゃった自然災害の問題あるいは地震の問題、高齢者社会の問題、そして全ての人たちが情報にアクセスするための情報アクセシビリティの問題などが、人や社会の大きな課題です。そういった課題への取り組み方の良い見本が東京で実現できればと思います。インターネットはサイバーセキュリティなどの話題で悪いことが沢山起こるとよく言われるのですけれども、これはアブユーズといいます。アブユーズというのは悪用とか濫用という意味ですが、その反対は何かというと、濫用でなければ正しい使い方ということだと思いますし、悪用でなければ善用ですね。このような「善さ」は日本の大変大きな文化であり、責任と役割ではないかと世界からも見られていると思います。その期待に応える発展が東京都でできればと思いますので、議論には大変期待しております。よろしく願います。

それでは、東京都の取組状況を小室理事から御説明していただくということで、よろしく願います。

○小室理事　それでは、事務局のほうから、東京都の取組状況について御説明いたします。資料3をご覧ください。

8月に発表いたしましたTDH基本戦略では、都の3つのアクションをお示しいたしました。そのアクションごとに、都の取組状況を御説明いたします。

まず、Action1は、アンテナ基地局設置に向けた都のアセットの活用でございます。本日より、1万2799件のアセットをデータベース化いたしまして、公表いたします。都の建物、土地への法人アンテナの設置は現在40件です。この図にありますとおり、これに比し

まして、約320倍の可能性が広がると考えております。

今回は第一弾といたしまして、土地と建物に関しての公表ですが、今後、順次公表件数、公表対象の拡大を図ってまいります。ぜひ御活用ください。

次に、ワンストップ窓口の創設でございます。こちらも本日、ICT推進部内に設置いたします。通信事業者様等からの問い合わせや現地調査に係る窓口を一本化し、効率化を図ってまいります。今後、作業の進捗状況を可視化し、事務処理時間の縮減を目指してまいります。

次にAction 2、5 Gの重点エリアの設定でございます。まず、五輪会場でございますが、Wi-Fi環境の整備やキャリアの皆様による5 Gアンテナの整備を進めてまいります。

西新宿でございますが、都のアセットを活用した5 Gアンテナの整備、スマートポールの設置、xRライブの実施等といったものを行ってまいります。

都立大エリアでございますが、ローカル5 G環境の整備、5 G環境を活用した研究・実証実験、産学公連携による南大沢駅周辺エリアにおける5 G先進地域の創出等に取り組んでまいります。

次にAction 3、都自らの5 G施策の展開でございます。主要事業局全てにおきまして、5 G等の先端技術の活用にかかる事業の検討を進めておりまして、来年度の予算要求に織り込んでおります。

具体的には、左側の防災面では、監視カメラを生かした高画質な動画等による河川状況の提供、真ん中の産業振興面では、先駆的に5 Gを生かしたスマート工場化を図る中小企業の支援、右側の教育面では、都立学校における5 Gを活用した先端技術の実証研究といったものを行ってまいります。

都の具体的な取組状況についての説明は、私からは以上でございます。

続きまして、TDH基本戦略推進体制の整備につきまして、宮坂副知事のほうから御説明いただきます。

○宮坂副知事 先ほど小室理事のほうから、東京都として、皆様に少しでも早く東京自体ですばらしいモバイルインターネットが今以上にできるためにできる主にハード面での話をさせてもらいました。

あわせて、東京都の中も人材を強化して、組織も固めていかないと絵に描いた餅になりますので、それも今、知事の強力なリーダーシップのもとで強化しております。それをお話しさせていただきます。

戦略政策情報推進本部というのはもともとあるのですけれども、ここで小室理事を初めとして、TOKYO Data Highway推進担当を専任部隊としてつくります。専門の部署として、専任でやっていきますので、皆さんとの窓口もどんどん進めたいと思います。

特に最初のころは、情報の連絡などがお互いに慣れないところもあると思いますので、ややぎこちなかったり、時間がかかったりなどがあると思いますけれども、どんどんお互いにしっかり話し合っ、申請、調査、工事開始を少しでも早くできるような体制に改善

していきたいといったことを強力に推進する部隊です。

この各局というのが、いわゆる道路や教育など、都でたくさんの事業をやっているのですけれども、それにまたがる形で、横断する横串の組織として機能させて、しっかり取り組んでいきたいと思っております。

次に、組織だけではなく人材そのものの強化をしないといけないということで、それについて少しお話しさせていただきたいと思えます。

新しい取組をしますので、これに詳しいデジタル系の人材を強化しないといけないという話がございます。知事のほうから先日、ICT専門職を都につくろうと。実は今まで行政にICT職というのはありませんで、事務の方がローテーションでやるケースが多かったのです。もちろんそういう方は行政のエキスパートではあるのですが、ICT専門職ではないです。なので、今後は行政のエキスパートと、今まさに中途採用で、外からデジタルの専門職を採りに行っております。そしてさらに、外部の実務のできる有識者を入れて、トライアングルのフォーメーションでどんどん実務を進めていこうと今は思っております。

後ろのほうに第一弾のデジタルトランスフォーメーションフェロー、略してDXフェローと名づけているのですが、現在11名ほど契約をさせてもらっておりまして、それぞれの得意分野に応じてアドバイスをもらうという形にさせてもらっています。

今後、東京都の規模を考えると、まだまだ全然足りない。シンガポールなど海外のまさに都市間競争をしている国では、ICT人材は何人いるのかと聞いたら大体1,000人ぐらいだよと普通に返事が来るのです。現状、東京だと、数え方はいろいろあるのですけれども、どう数えても100人とかになってしまいますので、やはりまずはしっかり人材と組織をつくるということは、引き続き強力に推し進めていきたいと思っております。

そして、新たに横串でできるICT推進本部と強力に加わる人材、そして皆さん民間の力がセットになって、東京都のさまざまな事業局がございます。ここでもどんどん行政サービスや都の持っているインフラのデジタル化、インターネットにつないでいくといったことを一緒になって取り組んでいって、東京都というのがデジタルトランスフォーメーションに街ごと行けるようにぜひ頑張りたいと思えますので、引き続き、今後ともよろしく願います。

以上、私からのお話でした。

○村井座長 ありがとうございます。

それでは、次にお集まりいただいた各社の方から御提案等の御説明をいただきたいと思えます。

最初はNTTドコモの丸山さんからお願いいたします。

○丸山様 NTTドコモの丸山でございます。私より、5Gに関連して、ドコモの取組と目指す世界について少し御紹介させていただきます。

私どもは、5Gで何でもできるとは思ってございません。世の中、デジタルトランスフォーメーションとよく言われておりまして、これによって生産性の向上あるいは革新的な

サービスを創出すると言われておりますが、私どもはデジタルトランスフォーメーションを支える技術の重要な柱の一つが5Gであると認識しております。したがって、ほかの柱であるIoT、AI、xR、クラウドというものと並んで5Gを使っていただくことで、新たな価値創出や社会課題の解決に結びつけていければと考えてございます。

従って、5Gによって、私たちのライフスタイルが大きく変わる場面というのはいろいろあると思います。例えばエンターテインメント分野では、ゲームやスポーツといったところで新たな観戦スタイルを御提示することによって価値を創出する。あるいは、産業分野では、教育やスマートシティといったところで、新たな価値を創出できるポテンシャルが十分にあると考えてございます。

今、申し上げたような話では、なかなか実際ぴんと来ないというお声をたくさん頂戴しておりますので、私どもは、ラグビーワールドカップが始まります9月20日から5Gのプレサービスを全国で展開いたしております。これは現実に5Gで割り当てられた周波数を使い、実際の基地局を設置し、その電波を使って、一つは技術検証ということを目的にしておりますが、それ以外にも左側に書いてございますように、実際に5Gのサービスをお客様に提供して体感していただく。それからもう一つの目的として、特に企業のパートナー様との協創はなかなか時間がかかりますので、この事例は遠隔レッスンや農業の事例を書いてございますが、こういう形で、各パートナーの皆様と今、準備を進めているところでございます。

今、申し上げましたように、社会課題の解決という次元になりますと、通信キャリアである私どもだけの力では限りがあると考えております。したがって、ドコモでは広くパートナー様を募集して、これは5Gオープンパートナープログラムと申し上げておりますが、こういう形で、5Gを活用して新たな価値の創出をみんなでやっというここと呼びかけをいたしてございまして、既に3,000社を超える方々にお集まりいただいております。これはIT関連の会社だけではございまして、さまざまな業種の会社様、自治体様、大学様、そういうところの皆様と一緒に、ここに挙げているような、例えば働き方改革や防災、セキュリティということを今、取り組んでいっている最中でございます。

現在、プレサービスを実施中でございますが、2020年の春には商用を開始の予定でございます。

冒頭、小池知事からもお話がございましたように、その後、東京2020オリンピック・パラリンピックが予定されておりますので、これは私どもの5Gも使って、ぜひとも盛り上げていきたいと考えております。

特に外国からのお客様も多く来られることが予想されておりますので、そういうお客様にもぜひとも体感いただけるように頑張っていきたいと思っております。

私からの説明は以上でございます。

○村井座長 ありがとうございます。

それでは、引き続きまして、KDDI株式会社の高橋様からお願いいたします。

○高橋様 KDDIの高橋です。よろしく申し上げます。

今日は本当に数分というお話だったので、我々が今、5Gに取り組むコンセプトだけお話ししようと思ってお持ちしましたので、よろしく申し上げます。

我々は今、5Gの世界をどう定義しようかということ、どうしても5Gといいますと技術用語が飛び交ってしまいますので、我々はまず、5Gでやりたい世界を言葉にしたらどうなるのだろうかと考えまして、au UNLIMITED WORLDという言葉にしております。

次の5Gの時代では、大量のデータを瞬時にストレスなく、あるいは自由に、かつ安心して取り扱えるようになる。これが5Gの姿だと思っていますので、それは今までの制約から解放されたUNLIMITEDな時代を提案するものであって、またauはさまざまな取組で、5G時代のUNLIMITED WORLDを提供していきたいと思っています。

具体的には、例えば幾ら使っても同じ料金でUNLIMITEDに使えるような、あるいは、どのような場所でも本当に瞬時に使えるような、そういうUNLIMITEDな世界を。VRとかARの、AのほうはAUGMENTで拡張するという意味なのですけれども、ちょうど頭文字がauだったものですからこれを使わせていただいてAUGMENT、いろいろな体験価値を創造していく時代を5Gで実現したいというのが我々の考えであります。

今回はTOKYO Data Highwayなので、TOKYO Data Highwayをau 5GでAUGMENTしていくというコンセプトで何ができるかを、今日を皮切りに皆さんとお話しさせていただきたいと思っております。

既に知事からもお話がありました例えば教育の話であったり、医療が変わっていったり、交通、MaaSが変わっていったり、これは自動運転なども当然入っていきますけれども、冒頭でお話があった防災が変わるということで、既にスマートドローンの世界についても目視外飛行ということで、かなり規制のほうも緩和されていく予定だと聞いておりますので、こういうものを使いながら、東京都さんが考えられるData Highwayを、5Gによって体験価値をどんどん拡張していくような時代になってくれば良いと思っておりますので、本当に今日を皮切りに、そういうもののお手伝いをさせていただきたいと思っております。

これはせっかくの機会なので、お願いしたいことと書いてきたのですが、実は先にやっていますとおっしゃっていただいたのですが、5Gは周波数の特性の問題がありまして、非常に周波数が高いのです。そういう意味においては、なかなかエリアのカバーをつくるのが難しく、一つ一つのエリアカバレッジが狭いものですから、基地局を多く設置していく必要があります。一方、新たに基地局を設置できる場所が非常に限られておりまして、既に1万2000カ所を超える都が保有されるアセットを御提示いただきましたけれども、これを積極的に使わせていただきまして、ぜひともこの5Gをすばらしいものにしていきたいと思っています。

また、5Gネットワークの整備をするに当たっては、基地局への光ファイバーがすごく大事になってきますので、この引き込みや電源の確保というものもアセットとともに使わせていただきたいと思っています。我々はスポンサーではないので、なかなかラグビーだ

とか何とかというのは言いづらいのですけれども、開催されるスポーツ等のイベントにおいて積極的に5Gをアピールいただければ、我々はそれに伴った整備をしっかりとしていきたいと思っていますので、ぜひともよろしくお願ひしたいと思っています。

私のほうからは以上です。

○村井座長 ありがとうございます。

それでは、ソフトバンク株式会社の宮内様からお願いいたします。

○宮内様 ソフトバンクの宮内でございます。タイトルが格好よ過ぎるような感じですがけれども、東京UPDATE世界に誇れる最先端の都市をつくらうということで、少し考えてみました。

5Gについては、もうお二方が全部お話しされた内容ですけれども、いずれにせよ、人と人のつながりから、人と物、物と物、物とロボットと、何でもつながってくる。その最も基盤になるネットワークだと私は思っております。

我々自身も今、やっている仕事にリンクしているのですけれども、安心・安全、教育・医療、都市・交通という中で、5Gのネットワークで大量に接続できる。1キロ四方で100万個のデバイスがネットにつながる。そうすると、河川の監視であったり、インフラの寿命をどうするかという問題であったり、防犯・警備にも使えます。

教育・医療では遠隔診療、あるいは現在もプログラミング教育とか、Pepperを使ったものとか、いろいろなことをやっております。高齢者・障害者支援といったことも、5Gのネットワークが完璧になってくるとどんどんやりやすくなっていく。

都市・交通では、MaaSについては自動車メーカーさんと一緒にモネ・テクノロジーズという会社をつくりまして、今いろいろな実験をやっております。

あるいは、キャッシュレスはPayPayというのをやっておりますけれども、結構大きくなってきました。

スマートビルは、来年の9月には弊社本社が竹芝に移る。これも東京都さんとジョイントで進めるようなところではありますが、そこを完全なIoTビル、スマートビルにしようと思っています。そのようなことで、いろいろお手伝いできるのではなからうかと。

私が今日申し上げたいのは、今、東京都にはいろいろなサービスがあると思いますが、これを全部スマホに乗せるといえるのはいかがでしょうか。要するに、5Gのネットワークの基盤、あるいは、そういったものができると、全てがデータ化される。データ化されると、実は転出・転入の証明が欲しい、戸籍謄本をとりたい、印鑑証明が欲しいと。今は印鑑証明はマイナンバーで、例えばコンビニでとれますけれども、わざわざコンビニに行かなくても、東京都スーパーアプリができますと、こういった暮らし手続から始まって、ここに勝手に私たちが書いているのですけれども、そういったアプリを順番につくっていくと最終的には都民は絶対に喜ぶはずだと。なおかつ、皆様のお仕事も一気にモバイルによって合理化できるはずだと私は思っている次第です。

これは多分、市区町村も含めて、東京都がユニファイドのガバメントプラットフォーム

をつくるということが、これをつくるというターゲットをつくとそれができるようになってくるのではないかと思っている次第です。

そういう意味でセーフシティ、ダイバーシティ、スマートシティと言われていることでもございますけれども、今も世界でナンバーワンの都市だと思えますけれども、最先端の面でも世界に誇れる東京都をつくっていくことができるのではなかろうかということで提案させていただきました。

ありがとうございます。

○村井座長 ありがとうございます。

それでは、引き続きまして楽天モバイル株式会社の山田様、お願いいたします。

○山田様 楽天モバイルの山田でございます。よろしくをお願いいたします。

私どもはこの10月に正式に携帯キャリアとしてサービスを開始いたしまして、まだ数千人の無料サポータープログラムということでございますけれども、東京、名古屋、大阪を中心に一気に基地局建設を加速させているところでございます。

私どもが建設している4G基地局は、世界初の完全仮想化クラウドネットワークという、技術的なお話になるのですが、ソフトウェアを中心にネットワークをつくっていきこうということでございまして、これがいいところは、ソフトウェアを中心につくっておりますので、当然アンテナは5G用につけなければいけないのですが、コアと呼ばれているのですが、それ以外の機器は余り変えないで、ソフトウェアのアップグレードだけで、本当の意味での5Gへの切りかえができるということでございまして、ここに書いてあるMEC、Mobile Edge Computingとか、ネットワークスライシングとって、いろいろな人に、いろいろな形でネットワークを提供するといったものも非常に簡単にできるという、後発者であるがゆえの、5Gを見越したいろいろな技術を盛り込んでつくったということでございます。

基地局のほうも、右を見ていただきますと、これが総務省さんにお出しした5Gの基地局の計画なのですが、これを大幅に前倒しして、5Gもかなり積極的にやっけいこうと考えてございます。

その活用ということでございますけれども、御存じのとおり、楽天というのはもともと通信会社ではなくて、インターネットを通じていろいろなサービスを御提供しております、IDで言いますと1億IDぐらいあるということなので、楽天のエコシステムを使って、その上に5Gを乗せて、いろいろなサービスを御提供していきたい。例えば、私どもの国内のECの流通総額、取り扱いの総額というのは年3.4兆円あるのです。その物流を今、どんどん自前で構築しているのですが、物流に5Gを活用いたしまして、無人自動車といったものとか、ドローンとかを組み合わせて、人手不足とか、先ほど知事がおっしゃった災害事務局の対応といったことをグループ全体を挙げてできるのではないかと考えております。

それ以外にもキャッシュレスとかトラベルとか、グループとして非常に強いところがあ

りますので、そのグループの強みを生かした5Gの活用ができると考えております。

東京都さんとの協働の仕方ということで、私どもは基地局をかなり一気につくっているところがございますので、先ほど触れられたアセットの活用、窓口の一本化は私どもの切実な課題でございますので、本当にありがたく思っております。来年の春ぐらいから、ぜひ何か一緒にできれば、実証実験みたいなこともさせていただいて、6月から5Gのサービスを開始したいと思っておりますので、それを都民の皆様にも御提供させていただいて、私どもはグローバルにもいろいろと展開しておりますので、東京都でのいろいろな成功事例などを海外に御紹介できるようなこともあるのではないかと考えております。

私からは以上でございます。

○村井座長 ありがとうございます。

引き続きまして、株式会社JTOWERの田中様からお願いいたします。

○田中様 株式会社JTOWERの田中敦史と申します。創業して約7年半のベンチャー会社でございます。

弊社は携帯キャリアではないのですが、まだ携帯キャリア様ほど知名度はありませんので、少し会社の紹介から御説明させていただきたいと思っております。

JTOWERの紹介ということで、弊社は大型の建物内、屋外の携帯のインフラを共用化する、シェアリングする。これを推進しているインフラシェアリングの事業者になります。

会社を設立したのが2012年で、商用サービスを開始し始めたのが2014年。それから、日本全国の大型の建物、ショッピングモールやオフィスビル、病院、ホテル等々の建物内の携帯インフラの共用化を図っています。現時点では、導入予定のものも含めてになりますけれども、累計で215件の実績がございます。そして、ここにいらっしゃる携帯事業者様に、ほとんどのビルで御利用いただいております。ありがとうございます。

東京都内における代表的な導入物件をここで少しピックアップしました。最近竣工した渋谷区の新庁舎、ホテルオークラ、虎の門病院、GINZA SIX、あとは銀座の地下通路といった施設での携帯インフラのシェアリングビジネスを行っています。

これまでは4Gの携帯インフラの共用化ですが、今後は5Gにおいても、このシェアリングというのを推進していきたい。先ほどKDDIの高橋社長からもありましたけれども、屋外・屋内、5Gの基地局やアンテナの設置場所というのは一つ課題になってくると思っていますし、あとは景観の保全の課題。もちろん、各社が個社対策で独自に設備投資をされるケースもありますけれども、そういうシェアリングのニーズがあるエリア、建物においては、共用化のほうを推進してまいりたいと考えております。

もう一つは、各携帯キャリア様の設備投資の削減につながるような提案も、これまで弊社は4Gのサービスでも提供してきましたけれども、5Gの時代においても、こういった各社のコストダウンにつながるような取組もしていきたいと思っております。

下段にありますけれども、今後はインフラシェアリングを活用した5Gの対策ということで、東京都様のほうから施設リストの開示があつて、弊社のほうでシェアリングのニー

ズがありそうな施設をピックアップして、シェアリングの御提案の策定をして、各キャリア様に御提案する。複数の参画事業者がいそうなエリアにおいては、このシェアリングのほうを推進していきたい。こういったスキームを検討していきたいと考えております。

TOKYO Data Highwayということで、一番左の5G先進都市としてのインフラ整備という点では、もちろん5Gの整備は免許人である携帯キャリア様が整備されるものであり、弊社はその裏側でシェアリングの推進を行ってまいりたいと考えております。

先ほど御説明がありましたけれども、東京都様みずからが5Gの施策を展開していく。恐らくローカル5Gを想定されていると思いますけれども、弊社としても、ローカル5Gの整備支援のほうにも携わってまいりたいと考えています。

あとは先日、東京都様から御発表がありましたうちの一つに、挑戦者、ベンチャーが集まるスマートシティにしていくのだと。弊社はベンチャーです。本日も大手キャリアのトップの方々、小池知事、宮坂副知事、村井教授のこういう場に、ベンチャーである弊社にお声がけいただいた。本当に深く感謝するとともに、この挑戦者の一社として本取組にしっかりと貢献してまいりたいと思います。

以上になります。

○村井座長 ありがとうございます。

いろいろ議論しようと思いましたが、時間も迫っており、せっかくですので知事と副知事から一言いただきたいので、私はそれを含めて、2点だけコメントさせていただければと思います。

一つは、知事が最初におっしゃった災害、地震について考えていくことは、自治体としては大変大きな使命だと思います。現在、災害時におけるモバイルネットワークのライフラインとしての重要性はととも上がってきていると思います。モバイルであれば、例えば医療ができる、物流が必要な場所と行き方がわかる、そういった安全・安心もつくっていくということですので、その視点から、TDHがどう向かっていくかということなのです。

もう一点は、世界の都市との協創というお話が宮坂さんからありました。これは日本が一番先端を行っている、質の高い、人にやさしい、人に貢献するインフラをつくるべきだと思うのですが、そういう視点で東京都が良い見本を見せて世界に貢献していく。あるいは、日本のほかの都市に貢献していくという点があるかと思います。この2点を含めて今、キャリアの方から伺ったことに対してコメントをいただこうと思うのですが、まず宮坂さんからお願いしていいですか。

○宮坂副知事 ありがとうございます。

おっしゃるとおり災害、大きな雨とか地震というものから、東京は逃げられない町だと思います。これから世界でいろいろな都市がスマートシティをつくると思うのですが、東京というのは、世界で最も災害について考えたスマートシティをつくる。これに関しては東京がやるしかないのではないかと思うぐらい、ほかの都市はやってくれないと思うのです。なので我々自身がみんな力で力を合わせて、災害に強いセーフシティのあり方は

何なのだというのは、ぜひとも幅広く議論をしたいと思います。

東日本大震災のときもかなり、携帯電話がもっと使えればというのはありましたけれども、今はあれからもっと普及していますので、本当にライフラインのど真ん中に来ていると思いますので、ぜひともと思います。

もう一点は都市間競争の視点で申しますと、今日は非常に街のデジタルトランスフォーメーションの御提案をいただいて、しかも、そのベースになるのがモバイルインターネットインフラということなのですけれども、あわせて我々は、私たち自身が変わらないといけないと思っているのは、都で働いている人、それはここにいる職員から、学校の先生とか消防署の人も含めたデジタルトランスフォーメーションなのです。ここが世界最先端、少なくとも競争している世界の自治体の皆さんと同じレベルの道具で仕事をしないと、そこで完敗してはなかなかいいアイデアも出てこないと思いますし、生産性も上がりません。そういった面でも、街をどう変えるかということと、働き方をデジタルテクノロジーでどう変えるのかといった点も、これからぜひ意見交換とかアドバイスをいただければ本当に助かるので、よろしくをお願いします。

○村井座長 震災のときに、基地局でバッテリーがどのくらいあるかというのは、この国は3時間というmandatoryの準備があった。それがものすごく強かったのです。ですから、先ほど高橋さんのほうからもファイバー、電源というのがありましたけれども、どのアセットがあって、バッテリーがどれだけでもつかというところはものすごく大事なインフラの要素だと思うので、ぜひ考えていただきたいと思います。

それでは、知事、いかがでしょうか。

○小池知事 各社の皆様方からプレゼンをいただきました。これから5G、その後も見据えながら、それぞれ各社がお考えになっていることは、かなり共通部分があるかと思えます。社会においてニーズはますます複雑化、個人化していき、情報通信というものは、もう空気と同じで、あって当たり前。今回、各地で停電などがあって、皆様方も基地局の問題で大変御苦労されたと思いますけれども、あのときに避難所に集まってきた皆さんが何をなさっていたかといったら、みんな携帯電話への充電ですね。それほど欠かすことのできない存在になってきているのだということを改めて感じたところでございます。

あるものがないというのは不安なのです。不安にさせないためには、いろいろな行政としての役割を果たすということから、今日は東京都が有している土地、建物を約1万3000件、あわせて勘定いたしますとそれぐらいの数になるということでありまして、それぞれ営業の努力をされて、基地局の置き場所を探しておられると思いますが、それはもう明らかにスピード感を持ってやっていただかないと世界に負けてしまうということを何度も申し上げますけれども、そういったことで、今日は方向性が一致できたのかと思います。

また、東京都ではそれぞれ3つコンセプトを描いておりまして、まず、安全な都市としてセーフシティ。多様な力を生かしていこうという意味でも、インクルージョンの部分もありますダイバーシティ。3つ目がスマートシティということで、これは情報通信におい

ては、いずれも当てはまる考え方ではないかと思えます。かつ、東京都政としての進め方で、3つのレスを考えておりました、これはペーパーレスとキャッシュレスです。いろいろ法律でキャッシュが存在しなければならないところもあるのですが、基本的にキャッシュレス。あとはハンコレス。この3つのレスを進めていくことが、都民へのサービスに資するものだ。また、働き方改革という中で、職員がよりクリエイティブな時間に自分のエネルギーを使うためにも、こういったことを備えていくというのは、都民のサービスでもあり、また職員の働き方にもつながると考えているところでございます。

TOKYO Data Highwayでございますけれども、そのインフラになるものだと思っておりますし、64年の時点でのレガシーが新幹線と首都高であったわけでございますが、こういうタンジブルなインフラが64年のレガシーになったのであるならば、今回の2020年大会というのは、むしろ見えないインフラとしての電波の道で、このTOKYO Data Highwayということをしかりと整えていくことが、国際競争にも打ち勝つ、また都民にとってもよりよいサービスにつながるものだと思います。

今、3Gのところに行ったらイライラして、なかなか耐えられないというか、逆に言えば、そういったところはもう時の過ぎゆくままに、むしろ自然を楽しむときには、逆にそっちのほうがいいかと思ったりそれぞれでございますが、キャリアの皆様あつての5Gの実行だと思っておりますので、ぜひ御活用いただいて、国策でやっている国と時間的な競争をしていくと、なかなかそこは厳しい。それぞれサービスでの営業努力は、ぜひ競い合っていたきたい。一方で、ほかの都市との競い合いとしては、私どもはスピードを重視していきたいという思いを皆様とともに共有していきたいと思っております。

さらには、村井先生にこの会の座長をお務めいただいているのはとても安心で、ぜひ御指導のほどよろしくお願い申し上げたく存じます。

ありがとうございます。

○村井座長 どうもありがとうございました。

時間が迫ってしまいましたので、最後に一言申し上げます。

本日のプレゼンを伺って、全ての人を使い、全ての産業がこのHighwayに乗ってくるということだと思えました。そこで、東京都の資料に全ての各局と書いてありましたけれども、それぞれの縦の役割が壁をつくらず、横に協力し合うという体制は、どのようなIT政策でも大変重要な要素になっており、それをいよいよ実行に移す体制が整ったというのが、このインフラの発展をきっかけにしたテーマではないかと思えます。そういったことも、自治体としての東京都、あるいは世界を先導する都市である東京が、こういうことで取り組んでいくというのは大変頼もしく、大きな期待があるのではないかと思えますので、これからぜひ大きな成果を挙げていくために力を合わせていきたいと思えますし、私も微力ながら貢献をしたいと思っております。よろしく願いいたします。

それでは、事務局のほうから、今後の進め方について御説明をお願いいたします。

○小室理事 それでは、今後の進め方につきまして御説明いたします。

このTOKYO Data Highwayサミットでございますが、皆様御多忙のところでございますので、年に1回の実施とさせていただきたいと考えております。

そのもとに、TOKYO Data Highway推進協議会を設けまして、もう少し実務的な面から、事柄に関してお話をさせていただくという形を考えております。この協議会につきましては、座長は村井先生にお願いしたいと思っております、年に3～4回程度実施できればと考えております。

そのもとに、実務者レベルの分科会を設けていきたいと考えております。これらは月に1回程度実施していきたいと思いますが、まずはネットワーク分科会ということで、アンテナ基地局設置促進等といった面について、実務面からさまざまな事柄について検討、協議をさせていただければと思います。

その後、どういったサービスを提供していくかとかいう事柄につきましての分科会といったものも設置していきたいと考えております。

説明は以上になります。

○村井座長 どうもありがとうございました。

それでは、事務局のほうにマイクをお返ししたいと思います。どうもありがとうございました。

○戸井崎ICT推進部長 村井座長、どうもありがとうございました。

本日は御多忙のところお集りいただきまして、まことにありがとうございました。これをもちまして、第1回「TOKYO Data Highwayサミット」を終わります。ありがとうございました。

この後、記念撮影がございますので、皆様におかれましてはそのままの状態でお待ちください。係員が御案内をさせていただきます。

午後5時51分閉会